

# 部 会 会 議 録

## 周南市まちづくり総合計画審議会・第1部会 第5回

日 時	平成16年9月9日(木) 14:00～15:40
場 所	市役所みゆき通庁舎2階 第5会議室
出席者	委員 10人
	天野部会長、谷野委員、田村委員、磯崎委員、内山委員、小林委員、山本委員、毒島委員、戸倉委員、片川委員
	事務局 6人
	磯部企画財政部次長、宮川企画調整課長、企画調整課(藤井、坂本、三川) 新南陽総合支所地域振興課(石川)
資 料	基本構想第5章目標1, 5修正案、基本計画第3章第1節・第5節修正案、基本構想第6章修正案(骨子)

### 会 議 内 容

#### 1. 審議

##### (1) 基本構想第5章目標1, 5の修正案について

(部会長) 前回からの変更点としては、(1)は「青少年の健全育成」という表題であったが、広すぎて焦点がぼけているし、学校教育その他との関連がわかりにくい、ということがあったので、「地域連携による青少年健全育成」という絞った表題にしている。また、「宝物」という表現も、「物」というのはいかがかとのご意見があったので「宝」としている。

基本構想について何かご意見は。もし何かあれば、後でもいいので事務局に出してほしい。全体会の場でも再度議論されることになります。

(委員) 目標5の「ともに築いていくまちづくり」を「一人ひとりが尊重されるまちづくり」に変更しているが、そこがしっかりこない。どちらかということ、人権尊重というような表題になっているように感じるが、ともに築く協働型の市になってほしい、そういう市でありたいということが言いたかったのではないかと思う。おそらく時代の潮流からきているのだと思うが、協働型のまちが増えているから、そういうまちになりたいということを目標として特出ししたかったのではないか。人権と男女共同参画が一緒に入っているから「一人ひとりを尊重する」というような表題になってしまうのであれば、それは「安心して生活できるまちづくり」のほうに入れてはどうか。

(部会長) 「ともに築く」ということは5つの目標のベースだから、目標5にしてしまうと小さくなってしまふ。また、「心豊かに暮らせる」や「安心して生活できる」などは目標だが、「参画するまち」というのはやはり目標ではないのではないか。

他のところでは、市民にとってどういうまちであるべきかということが書かれているが、ここだけ市民と行政と一緒にやっていくという行動が書かれている、というところに引っかかりがある。

(委員) 目標に書かれていることの主語は誰なのか、ということ。おそらく「周南市の人が、市民が」ということが主語になるのではないか。市民と行政とのパートナーシップを目標にするのではなく、それを構築しながらやっていくのは何のためか、ということが目標になるのではないか。

(委員) パートナーシップということが全体にかかっているということはわかるが、現実にはそうな

っていないので、そういう環境づくりが大切である、ということが目標5で書きたかったのではないかと思う。

( 部会長 ) 少し考えてみたい。他にもいいアイデアがあれば出してほしい。

## ( 2 ) 基本計画第 1 - 5 節の修正案について

( 部会長 ) 基本計画について、主な変更点について事務局から説明を。

( 事務局 ) 基本計画の主な変更点について説明

( 部会長 ) 概ね今まで議論いただいた内容は入っているのではないかと思うが、まだ足りないとか、議論の趣旨と違っているということなどがあつたら言ってほしい。

( 委員 ) 修正案 22 ページ、「48. 市民と行政のパートナーシップの構築」の施策の 市民活動の支援のところ、2 行目に「市民活動促進協議会を設置して」と書いてあるが、協議会を新しく立ち上げて、市民活動を活性化するための施策をここで検討していくということで、書いてあるのか。

( 事務局 ) 既に立ち上げられたものを指している。

( 委員 ) それならば「設置」はおかしいので、表現を変えたほうがよい。「活用する」とか。

( 事務局 ) もう一度事務局で整理したい。

( 部会長 ) 組織や計画などの固有名詞には「 」( カギカッコ ) を入れたほうがわかりやすい。

( 委員 ) 「市民活動」というのが、生涯学習的な市民活動に対する支援と一緒にしまっているというようなことを意見として言ったつもりだが、「48 市民参画」と「49 市民活動」が一緒になって、「48 市民と行政のパートナーシップ」になっただけで、同じではないかという気がする。

( 部会長 ) 前回の議論では、市民活動の中にも、文化芸術活動みたいなものと、市民が行政に参画して一緒にやるための母体となる市民活動と 2 つある、ここでは文化芸術活動などは落として、その母体となる市民活動を育てながら、市民と行政と一緒にまちづくりをやる社会をつくりましょうということだったと思う。

( 委員 ) これまでは、市民活動というと、コミュニティ活動や趣味の活動というように捉えられてきているのではないか。

( 部会長 ) コミュニティと市民活動は違うという議論もあった。コミュニティはある地域のための活動であり、市民活動はある目的のための活動ということだった。その目的が「市民と行政が一緒になってまちづくりを進める」という市民活動だけをここに残すということ。

( 委員 ) これまでも市民活動の定義づけがされてきたと思うが、やはり「市民活動」と書くと、一般の人はそうは読まずに、コミュニティ活動や趣味の活動のようもの全てを含んだものをイメージすると思う。

( 部会長 ) 「市民活動」に替わるいい言葉があれば良いのだが。市民参画の推進だけでは足りなくて、その母体となる市民の活動が活性化しないといけないということは事実であり、そういう活動に対する支援必要である。何か限定するような表現ぶりを工夫しないといけないかもしれない。

もう一度確認だが、市民活動促進協議会ではまちづくりに関する市民活動を対象していると思っていたが、趣味の活動なども含んでいるものなのか。

( 委員 ) 全て含まれていて、その中で市民交流センターの役割としてどういうことが考えられるかということがテーマだと思う。

( 事務局 ) 現在、市民交流センターに登録している団体の大部分はまちづくり活動というよりは、趣味の団体やボランティアの団体が多い状況である。

- (部会長) それでは、そこははっきりするように書き換えたい。「市民活動」ではなくて「まちづくりに主体的に取り組む市民の活動の支援」などといったように。そういうふうには書けばすっきりするのではないかな。実態を踏まえて、誤解されないような修正案を、事務局で考えて欲しい。
- (委員) 「2. 幼児教育」のところの施策(修正案の p5)で、「幼稚園就園に伴う保護者の経済的負担の軽減」ということが、「連携の強化等」のところに入っているが。
- (部会長) これだけで一項目というのも大きいのでは、ということがあって「等」に含めている。個人的には、本当に幼稚園について経済的な負担の軽減ということを市がやるのか、という思いはある。
- (委員) 合併に伴って、周南市が“売り”にした部分ではなかったか。こういうところで「子どもを大切にする」ということが言いたかったのではないかな。子育て支援ということで打ち出すのはよいと思う。ただ、「連携の強化等」のところに入っているのには違和感がある。
- (事務局) 「26. 児童福祉」の保育所のところでは「保護者負担の軽減化」という項目を設けている。
- (部会長) 「連携の強化等」という表題を変えたほうがいいかもしれない。ここは事務局で検討してみてほしい。
- (委員) 「5. 高等教育機関」(修正案の 12p)のところの施策の体系の「高等教育機関との連携によるまちの活性化」のところは“市が”ということか。“高等教育機関が他の高等教育機関と連携して”というように読めてしまうような。
- (委員) 施策は市が何をやるのかという視点で書いてある。
- (委員) 項目が「高等教育機関」なので“高等教育機関が・・・”と読んでしまうのかもしれない。
- (部会長) 小中学校は市の教育委員会の傘下なので、小中学校がこうする、ということが書けるが、高等教育機関のところでは、“高等教育機関が・・・”とは市としては書けないのではないかなということもある。
- (委員) 高等教育機関との連携によるまちの活性化というのは、生涯学習の項目のようでもある。
- (部会長) 生涯学習の面と産業育成の面と両方あると思う。「高等教育機関の活用によるまちの活性化」としてはどうか。そのほうがわかりやすいかもしれない。
- (委員) 専門学校については記述がないがどうなっているのか。まちづくりに参加されている学校もあると思うが。
- (部会長) 今はどこにも入っていないが、市として取り組んでいくということであれば、書き込んだほうがよい。
- (事務局) 専門学校については、例えばオープンカレッジやサテライトカレッジ等で講師をやっている。ただいたりしている。
- (委員) 高等教育機関のところに書き込むか。
- (部会長) 生涯学習のところでも触れるか。事務局で考えてみてほしい。

### (3) 基本構想第6章について

- (部会長) 第6章については、前々回の議論や他の部会長さん方と意見交換した内容を踏まえて、案を作成している。まだ文章にしたものではなく、骨格としてこのようなことを書き込んだらどうかということをもとめたものである。元の案とはかなり形は変わっているが、趣旨は生かしている。

「資料：第6章施策の重点 -ひと・輝きプロジェクト-」により説明

- (部会長) この案については、今日ここで議論していただき、こういう方向でよいということであれ

ば、第1部会の案として審議会に出して、そこで議論してもらうことにしたい。

(委員) 第5章の目標を実現するために、こういう視点で施策の重点化を図るということは分かりやすくなったと思う。

(部会長) 一点、どんな人材をつくるのかということが抜けているという気もするが、「力を発揮する活躍場の創出」のところで、こういう場を創出するということを書けば、こういう人材が求められているというのがわかるのではないかとということ。

(委員) 周南市特有の教育体系とは、市域も広がっているいろいろな教育機関が存在するということがか。

(部会長) 存在するというだけではなく、それを生かして周南市としてもっとおもしろい教育体系ができるのではないかとということ。最近では、いろいろな地域で中高一貫とか高大連携とか言われているが、周南市にはいろいろなことができる素材は揃っている。市で大学まで揃っているところはあまりないのではないかと。

(委員) 「個性を育む教育場の創出」のところで、教育界では「個性」ということの捉え方が曖昧であるので、そこはもう少し具体的にする必要があるのではないか。「次代を担う人材の育成」とかそういう表現にしてはどうか。

(部会長) 「個性を育む」と書いたのは、一人ひとりに合った教育システムというイメージ。その人にあった教育が選べるような、いろいろな選択肢をつくっていかうということ。これは骨格であるので、文章にする段階でもう少し具体的に書き込みたい。

(委員) 第6章の中での整合性はとてもよくなると思うが、ただ、人づくりでいいのかということはあると思う。

(部会長) 今までの議論を見てみると、やはり人づくりが非常に重要であるということについては、おおよその合意が得られているのではないかとと思う。審議会にかけてみないと分からないが、妥当ではないか。

(委員) 「周南市の課題」との整合性の問題はどうか。人づくりに重点を置くのであれば、人材不足ということ課題の一番にあげるべきではないか。

(委員) 不足していなくても人材育成は必要。拠点性の向上ということに関しても、例えば、駅ビルをいいものにして人が集まるようにしようという時に、その中で何をするから人が集まるのかということを見ると、「主体的な自己啓発場」や「力を発揮する活躍場」ということが要素として入ってくるのではないかと。

(委員) この案でまとまりがいいので、これでいいという感じもするが、あえて言うと、この前の時に、策定の趣旨のところに「合併論議の中で、思い切った施策ができなかったことも否めない」ということを書いたら、という提案をしたが、みんなが待ちに待った合併がようやく実現して、市民は“動き”を求めているのではないかとと思う。この10年間、合併論議の中でまちづくりが滞っていたと感じる市民にとっては、「米百俵」の話ではないが、人づくりだからもう10年待っているのはどうかと思う。人づくりはもちろん大事なことは思うが。

(部会長) 正しいかどうかは別として、皆さんに議論していただきたいが、「まちづくりとは何だろうと考えてきたら、物をつくること、道路をつくることではなく、結局、市民一人ひとりが満足するようなまちにすることだろう。そして満足とは何かと考えたら、5つのまちづくりの目標が出てきた。それは、市民一人ひとりが自分を育ててまちづくりに生かしていくことによって初めて成り立つということがわかってきた。当然それに必要な施設はあるが、それは目的ではなくて、実は手段であった。今までまちづくりというと手段だけを作ろうとしてきたがそれは違っていた。結局は

自分たち自身を高めること、これがまちづくりそのものの本質だったんだ。」と、こういうことではないか。

(委員) それは真実だと思うが、「周南市の」というよりは、日本中の真実である。

(部会長) 自分を高める方法として、周南市になったことによって何ができるかと考えてみると、市域が広がったことによって使えるようになった資源を有効に使いましょうということ、そして、それが最終的に一体感につながるということではないか。

(委員) 方向性としては間違っていないと思うが。

(部会長) 即効薬ではないのではないかという意見もあると思う。議論がわかれるところではあるが、即効薬を求めるのが市の行政なのかということもある。

(委員) 今まで、まちづくりに関わってきて、これまでも同じような議論があったと思う。しかし、ハードもソフトも何もできていない。また10年間同じことの繰り返しになるのではないかという懸念もある。行政には即効性も求められるのではないか。

(部会長) 市の行政の難しいところは、国や県の施策の変動に応じて、それに対応するような形で施策を立てざるを得ない面がどうしてもあることだと思う。ただ、そうであっても、逆に、そうだからこそ、「周南市はこうだ」という何かを持つことが大切である。市民はこういうことを望んでいるということを、個別のことではなくて、ハッキリさせることができれば、市が国や県と話をするときのバックボーンになる。それができていけば、今までと違う取り組みができるようになるのではないかという気がする。それに役立てばと思っている。

(委員) もう、なにを作る、かにを作るという時代ではないと思う。作れば目に見える形で、合併してからの周南市の発展ぶりというのが評価しやすいということもあるが、実際はそういう時代ではない。人づくりというのは目に見えにくい部分であるが、市民の期待に応えていくための方法として、政策評価の中で数値目標を掲げるという方法もある。県の計画でも、何人から何人に増やします、とか、こういう段階からこういう段階に移行します、といったような目標を掲げてやっている。そうすることで、ステップアップしていくということが、市民にとってわかりやすくなる。

(事務局) 行政評価については、事業と事務事業関係を行革とあわせてやっていく予定にしている。なお、この行政評価の件については、第2部会では、基本構想第7章で入れていくという案がでており、案文も作成していただいている。審議会でも議論していただくことになる。

(部会長) 目標5の表題は「主体性をもって参加できるまちづくり」ではどうか。

(委員) 目標のつけ方で、1と2は「～暮らせる」なのに、なぜ3は「～生活できる」なのか。

(部会長) 「～暮らせる」でいいのでは。

(事務局) プロジェクト案の1のところ「初等教育から～」とあるが、子育てというか生まれてからということについてはどのように考えたらよいか。

(部会長) これはスケルトンであるので、文章にする時に考えたい。

(事務局) 国際交流のところ、地域間交流を落としているが、これについて委員の皆さんの意見をお聞きしたい。

(委員) 他部会の委員からの意見票でも、地域間交流はなくてもいいのでは、という意見のようだし、この部会でも他のところへ移すか、というような議論だったと思う。おそらくこの部会の担当部分、目標1と5の部分には適切な場所はなさそうである、ということで皆さんのご意見は一致しているのではないか。

(委員) どういう目的で交流するのかということによる。観光なのか、文化なのか。

- ( 部会長 ) それぞれの施策の中に含まれているということではないか。
- ( 事務局 ) 国内の姉妹都市があったので、そういう項目にしていたが、それぞれの中に含まれるということでも問題はないのかもしれない。
- ( 委員 ) 意見票で、国際交流のところが姉妹都市に偏っているという意見も出ているが、民間で国際交流活動をされている団体もたくさんおられると思うので、ここに入れ込んでどうか。
- ( 委員 ) 外国人登録者数のH16のデータが急増しているが理由は。
- ( 部会長 ) 事務局で調べてみてほしい。
- ( 委員 ) 人口の問題で、まわりの人と話をする中で、目標人口が少ないということは必ずしも悪いことではないという意見があった。例えば、17万人を15万人に下げると何か支障がでてくるのか。
- ( 事務局 ) これまでの説明の繰り返しになるが、新市建設計画の目標人口17万人をベースにしており、これは、旧市町における計画の目標人口の積み上げ16万7千人と合併効果3千人の合計である。他の計画では、すでにそれで進んでいるものもある。また、昼間人口は16万4千人ぐらいあり、まちづくりにはそうしたことも加味していく必要もあるのではないかと考えている。
- ( 委員 ) 今までの計画の作り方は、右肩上がりの時代のつくり方であった。新市建設計画もそのままの流れでできているので、見直しをしてもいいのではないか。また、他の計画が17万人で進んでいること自体を見直すことも必要ではないか。県内の他の市でも合併は進んでくるだろうし、合併効果で増やすということについては、説得力に欠けるのではないか。
- ( 事務局 ) 目標人口は、10年後にこうなりますということではなく、それに近づけていきたいということである。
- ( 委員 ) それはわかるが、17万人で計算してやる施策と14万人の施策では違ってくるのではないか。新市建設計画が間違っていたということではなくて、今まではそういう方向でやってきたけれども、見直しをして改めてやっていきますというようなことを書いてはどうか。他の市の計画にもそういうことが入っていた。さらに周南市の特性として昼間人口を増やしていくということを目標で掲げればよいのではないかと思う。
- ( 部会長 ) 市としても17万人でないといけないということではないと思う。14万数千人になりますということだけを書けばいいということでもないし、活性化の努力目標ということもあると思う。反面、実現不可能な極端な数字では、計画自体の信憑性がなくなる。数字の意味をもう少し書き込んだうえで、しかるべき数字をあげるということが必要であろう。
- ( 委員 ) 他の市で、都市像が5つくらいあるところもあった。周南市も特性を現すような5つくらいの都市像にしてはどうか。例えば、産業の集積のまちとか。
- ( 部会長 ) そういう書き方もあるし、今の案のようにオーソドックスな書き方もある。これをベースにキャッチフレーズ的な都市像を別途議論するという方法もある。キャッチフレーズというのは、全ての人が納得するのはなかなか難しいので、具体的な施策を進める段階で考えるほうがいい場合もある。例えば、基本構想ではなくて、実施計画の段階や毎年の予算の段階でつけるとか、そういう方法もあるのかもしれない。

その他、修正案についての具体的な意見などがあれば、来週の月曜日までに出してほしい。